

共同研究構成員の研究成果報告書班応募用紙

平成31年 1月 21日

~~いずれかに○をつけてください。~~

1. 研究班名区分 : ~~一般枠・若手枠・特別枠~~

~~(若手枠は氏名の次に2015年4月1日現在の年齢もご記入ください)~~

2. ~~(1)~~ 代表者 (大学名・職・氏名)

神戸市看護大学 准教授・榎田美雄 (外大生協理事)

~~(2) 研究テーマ~~

~~未来の学園都市~~

~~世代間・異文化間・大学内外間交流の促進による健康で多文化共生的な学園都市的食生活を、生協食堂における「健康栄養相談会のワークショップ化」を通して獲得する~~

3. 研究班 (3) 構成員 (学外者については所属・職名を必ず明記してください) (大学名・職・氏名)

神戸市外国語大学・教授・岡本崇男 (外大生協理事長)

神戸市外国語大学・准教授・山本昭宏 (外大生協理事)

神戸市看護大学・准教授・相原洋子 (看護大・COC事業＝地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業＝担当者)

神戸市看護大学・助教・山下正 (看護大・学生委員会生協担当＝当時＝)

神戸市外国語大学消費生活共同組合・専務理事・衛藤昭二

~~(公募により、途中増員の可能性あり)~~

4. 研究テーマ

未来の学園都市

世代間・異文化間・大学内外間交流の促進による健康で多文化共生的な学園都市的食生活を、生協食堂における「健康栄養相談会のワークショップ化」を通して獲得する

5. 共同研究構成員の研究成果

~~(4) 研究の目的及び意義~~

~~学園都市は、1985年の神戸ユニバーシアードを契機に建設されたため、今後、住民の高齢化が急速に進行することが予想されている。また、学生の経済状況の悪化や理想的身体像のゆがみ等に由来する、学生の健康・栄養状態の悪化(若年女子の激ヤセ問題、ジャンクフード問題、肥満問題等)も大きな課題となっている。さらに、学園都市には、多様な背景をもった住民/学生/教職員がいるにもかかわらず、その相互交流が十分進んでいない、という問題もある。~~

~~とはいえ、この「問題状況、および、未達成状況」は、「研究のフィールド」としては、「未開拓の領野」であると積極的に捉えることもできよう。~~

~~たとえば、第一に、学園都市が直面する「地域の高齢化」こそは、アジアの諸国からみれば、その未来の先取りであるともいえる。つまり、高齢化する未来の学園都市は、高齢化に関わる多数の問題（高齢者の孤食問題、タンパク質不足問題、孤立問題、生きがい不足問題等々）を抱えることになるが、その解決への展望を得ることができるのならば、それは、アジアの未来の困難に対する対処プラン例として、留学生が持ち帰る価値のある達成としての意義を持つものになるはずだ。~~

~~また、第二に、本研究は、留学生を含めた学生の健康栄養問題を、単純に健康知識の不足や経済力の不足の問題と考えて終わりにせず、文化交流の促進で対応可能な「身体像の健全化問題（この部分は、身体の高齢性への許容度のアップをいかに図るか、という問題と言い換えてもよい）」として捉えることや、高齢者と留学生と交流することで生活というものに工夫の喜びがあると実感させる「生活文化の交流による豊穰化問題」として考えるものである。そのような新思考の実践は、所属する研究者の研究分野が違っている神戸市外国語大学と神戸市看護大学が協働してはじめて可能になるものであると言えよう。すなわち、本研究は、学園都市的な学際研究の典型モデルとなることをも、目標としたものであると言えよう。~~

~~なお、上記のように、地域の複数の主体が抱えている問題を、相互にもちよって、話し合いをさせるなかで、相互にアイデアを出させて解決させる手法は、近年の地域社会学で注目されている「ワークショップ」という手法であるともいえるが、生協活動の理念（生活問題の共同化と共同的解決の模索）でもあるといえよう。今回の研究に神戸市外国語大学生協からの支援が必要かつ重要なのは、そのような理念的重なりがあるからである。~~

~~研究の目的と意義をもう一度まとめておこう。本研究は、現在、大学生協によって個別大学の比較的単一文化的な学生向けに開催されている「健康・栄養相談会」を、地域の多主体が関わる形に再編し、「ワークショップ化」することで、地域の問題を、地域を構成する諸主体の交流によって解決する形を模索するものである。そこでは、高齢者からは、地域の食材の活用法などの知識提供もなされるかも知れない、また、留学生からは、思わぬ調理法の提案などもされるかも知れない。けれども、その知識提供は、翻って、その提供者の自負と自尊感情の昂進にもつながっていくかも知れない。すなわち、高齢者の生きがい問題や留学生の文化的受け入れ問題の解決にも資する可能性があるということである。さらに、そこから、看護学や栄養学の新しい展開への道が開かれるかも知れない。食生活という誰もが関わりを持ちうるテーマで、これまでの大学生協の実践を基盤になされる本研究は、学園都市の未来を実践的に切り拓く研究として価値があるものであるといえよう。学問分野的には、新しい地域看護学や異文化接触論のほか、地域社会学や高等教育論にも貢献するものになることが見込まれる本研究であるが、それが、実際の地域社会を基盤として、「多世代・多文化共生の健康なまち（学園都市）づくり」につながっていく見込みも同時に持っているところに、本研究が、「神戸学園都市大学交流推進協議会」の「共同研究交流助成金」による助成にふさわしいという特徴がある。ご高配を御願いたい。~~

~~（5）研究計画（様式1-2も合わせて添付して下さい）~~

- ~~1）研究対象者：看護大学学生10名、外国語大学学生10名（外国人留学生を相当数含む）、学園都市近辺在住の高齢住民10名（2年間で2回開催される健康・栄養相談会および付設ワークショップに参加する、主体類型別の、のべ人数）~~
- ~~2）研究デザイン：アクションリサーチ（調査紙法調査、会話分析、参与観察の併用）~~
- ~~3）研究方法：看護大学と外国語大学の学生が参加する「生協サポーターズ 食堂班（仮称）」を立ち上げ、学生食堂を利用した健康・栄養相談会を2年間で2回実施し、さらにその~~

~~イベントを地域に広報することで、高齢地域住民の参加も得る。この相談会において、昼休みと3限を組み合わせて、栄養状態のアセスメント、食生活に関する聞き取り調査（看護大側教員が主担当）を行い、食生活の現状課題を検証する（この際、必要に応じて管理栄養士の支援を得る）。同時に、カフェテラス方式で提供されている各プレートをどのように組み合わせるとどのような栄養価になるか実践的に組み合わせながら、プレート選択の実践も行う。さらに、食後、留学生、高齢者、一般学生、教員が混じり合う形で「多文化交流ワークショップ」を実施し（大学教員がファシリテーター）、「食文化交流会」を行う。~~

~~研究スタッフは、各年度のまとめを、「食文化ワークショップ・研究分析報告書」として編集し、100部程度発行し、5大学1高専ほか関係各所に配布する。2年間の総まとめの作成時には、この「報告書」とともに、その内容を基盤とし、かつ、食生活への助言を付加した市民学生向けの版を「学園都市・食文化交流パンフレット（日本語版）」として、200部程度作成する。また、この後者の「パンフレット」を多言語版に翻訳し、合計400部程度作成する。「パンフレット」については、学生・地域住民に配布するとともにWEB掲載する。報告書およびパンフレットの作成や「ワークショップ」の開催そのものを通して、地域の食生活への関心と文化交流の機運を高める。なお、体組成計等は、看護大の備品を活用する。~~

~~4) 具体的なスケジュール~~

時期	実施内容	実施場所
H27年8～9月	・研究対象者募集チラシの作成・配布 ・「生協サポーターズ 食堂班（仮）」立ち上げ	看護大学・外国語大学
H27年10月	「生協学生食堂 健康栄養相談会（第1回）」開催 外部より管理栄養士を招いての栄養学習と諸測定機器（体組成計、ヘモグロビン測定）を用いた栄養アセスメント、普段の食生活や食育の認知度に関する聞き取り調査の実施。「ワークショップ」の実施	外国語大学 学生食堂
H27年11月～ H28年5月	・「ワークショップ」のテーブル起こし、参与調査結果の分析、まとめ ・「サポーターズ」と研究者による「合同研究会」の実施	看護大学 ユニティ
H28年6～10月	パンフレット（試作版）の作成、多言語版への翻訳 パンフレットの配布と意見聴取	ユニティ
H28年11月	「生協学生食堂 健康栄養相談会（第2回）」開催 外部より管理栄養士を招いての栄養学習と諸測定機器（体組成計、ヘモグロビン測定）を用いた栄養アセスメント、食生活や食育の認知度に関する聞き取り調査の実施。「ワークショップ」の実施	看護大学 学生食堂
H28年12月～ H29年1月	栄養アセスメント、聞き取り調査結果を第1回目時と比較分析	看護大学
H29年2～3月	報告書の作成	ユニティ

~~(6) 研究者の役割分担~~

研究者氏名 大 学 名	役 割 分 担 ——論文名・刊行誌名・発行年月日——
榎田美雄（神戸市看護大学） 岡本崇雄 崇男 （神戸市外国語大学）、 相原洋子（神戸市看護大学）、 山下正（神戸市看護大学）、山	全員共著、『学園都市的食生活のすすめ』パンフレット（2017），2017年2月28日発行。研究のとりまとめ、調整、「健康栄養相談会」の企画運営 榎田美雄「多文化異文化交流と学園都市的食生活」、『現象と秩序』7号（2017年10月31日）。

<p>本昭宏（神戸市外国語大学）、 衛藤昭二（神戸市外国語大学 生協）</p>	<p>檜田美雄・山下正・相原洋子・山本昭宏，「地域と生協と大学」、『現象と秩序』7号（2017年10月31日）-「パンフレット」外国語版の作成のとりまとめ、神戸市外国語大学国際交流センターとの調整、参加留学生への説明 山下正・檜田美雄・相原洋子・山本昭宏，「健康的な生活のあり方と多文化理解」、『現象と秩序』7号（2017年10月31日） 相原洋子・檜田美雄・山下正・山本昭宏，「世代間交流から考えた健康的な食生活習慣」、『現象と秩序』7号（2017年10月31日） 「パンフレット」作成のとりまとめ、フィジカル・アセスメントに関する学生の指導、調査結果の分析・まとめ 生協の学生食堂利用に関する調整、管理栄養士の紹介</p>
---	---

6. 公開講座実施時期 (7) 本研究に関する他機関からの助成金の有無

実施済み（2017年6月17日 15:45～17:15）

①受給している _____ ②申請中 _____ ③受給していない

①の受給先名 _____ 『学園

都市的食生活のすすめ』 at UNITY 2階セミナー室3